

西諸県地域の普及活動

令和5年7月
西諸県農林振興局
(西諸県農業改良普及センター)

I 管内農業・農村の主な動き

1) 西諸県地区農業経営指導士会総会及び研修会を開催

13日、普及センターで農業経営指導士9名の出席で総会を開催しました。総会では、昨年度の事業実績及び今年度の事業計画について協議するとともに、普及指導活動計画の総合プロジェクト3課題について検討を行いました。また、普及センターからは、普及指導活動及び調査研究活動に関する話題提供を行いました。

今後は、普及事業推進協議会との合同先進事例調査や、九州・沖縄農業士研修会の積極的な参加により、県内外の指導士同士の交流を深めながら、地域の農業の活性化に向けた活動を行ってまいります。

2) 7月期子牛郡品評会が開催

14日、小林地域家畜市場において、西諸県郡市畜連主催による令和5年7月期子牛郡品評会が開催されました。品評会には、雌子牛49頭が出品され、審査の結果、優等賞に8頭、壹等賞に22頭、貳等賞に19頭が選ばれました。なお、優等賞首席は小林市野尻町のU氏出品の「こすもす」号（二刀流－美徳国－福之国）、2席は小林市野尻町のS氏出品の「まりの1」号（耕富士－秀正 実－美徳国）、3席は小林市のK氏出品の「にこら」号（富久竜－美徳国－忠富士）が受賞されました。

受賞牛は、発育良好で体積の豊かさ、腿の充実毛色、乳徴が評価されていました。



【優等賞首席こすもす号】

3) JAこぼやしゴーヤー生産部会目揃え・栽培講習会が開催

11日、JAえびの市において、表記目揃え・栽培講習会が開催されました。

普及センターからは、栽培における基本的な管理として、かん水の重要性と病虫害防除、定植後の風対策について説明しました。

現在、出荷が最盛期を迎えているので、かん水や防除についての指導を引き続き行っていきます。



【ゴーヤー栽培講習会】

4) JAこばやしピーマン部会定期総会を開催

25日、JAこばやしにおいてピーマン部会の総会が開催されました。

普及センターからは、特別賞「西諸県農林振興局長賞」の表彰とひなたMAFiNの紹介をしました。

単価が少しずつ高くなっている中で、いかに収量を上げていくかが重要となるので、引き続き関係機関と連携し技術支援等を行っていきます。



【特別賞「局長賞」授与】

II 主な普及指導活動等の取組

1 プロジェクト(総合、専門)に関する普及活動 (持続可能な農業生産の実現へ向けたアグリプレーヤーの確保・育成)

1) 第1回アグリ★レベルアップセミナーを開催

20日、担い手の経営管理技術の向上を目指した研修会をオンラインで開催しました。

セミナーは、外部から講師を招き、雇用者の労働条件等の基礎知識の習得や働きやすい職場づくり、求人から定着までの取組事例の紹介、求人情報を出す際のポイント等について説明がありました。

参加者からは、「良い会社にする為に、活用していきたい」との声があり、今後の農業経営を考える良い機会となりました。来月は、第2回目セミナーを開催予定です。



【第1回「労務管理」を学ぶ受講者達】

2) 第3回、第4回アグリ★ベーシックセミナーを開催

6日、普及センターで第3回のセミナーを開催し、10名の新規就農者等が参加しました。内容は「耕種農業の特徴・農地の高度利用」及び「経営計画」で、講師は普及センターが務めました。耕種農業の特徴・農地の高度利用では、西諸県管内の主要品目の概要や技術の特徴、輪作などの農地活用法について学びました。経営計画では、計画に基づいた資金繰りの考え方について学びました。

19日、普及センターで第4回のセミナーを開催し、9名の新規就農者等が参加しました。内容は「農業制度資金」や「収入保険制度」、「土壌診断」で、講師は収入保険制度についてはNOSAI宮崎西諸センターの水流課長、それ以外は普及センターが務めました。農業制度資金では、農業経営の安定や規模拡大のための融資について学びました。収入保険制度では、これから農業を始める人に向けて、制度の概要について説明がありました。土壌診断では、診断結果を活用した施肥設計の仕方や土壌改良の方法について学びました。

先月の第1回、第2回セミナーと比べて参加者が増え、新たに参加した人からも講義終了後に、積極的に質問する様子が見受けられました。

当セミナーの農業全般コースはこれで終了し、11月に畜産コースを計4回開催予定です。



【第3回 「経営計画」を学ぶ受講者】



【第4回 「土壌診断」の講義の様子】

3) 就農相談会を実施

7日、えびの市において、水稲と有機栽培のたまねぎで就農を希望する相談者から、導入する機械や作業内容・時間などを聞き取り、収支計画の作成支援（2回目）を行いました。

12日、えびの市で露地野菜経営を継承する後継者から、経費や承継の方法について聞き取りを行い、収支計画の作成を支援（3回目）しました。

20日、小林市で義父の水稲及び肉用牛繁殖経営を3年後に承継予定の方の就農相談に対応しました。承継に対する国や小林市などの支援策を紹介しました。

26日、えびの市で肉用牛繁殖経営を承継する後継者と、親の酪農経営とは別に肉用牛繁殖経営で就農する後継者の就農相談の2件に対応しました。前者は、既に税理士に相談済みで、承継方法が整理できているため、今後、収支計画作成支援をしていく予定です。また、後者は、具体的な内容が整理ができていないため、就農計画に必要な内容等について整理するよう助言しました。

今後とも関係機関と連携し、支援していきます。

※就農相談対応（面談）等 5名5回

（内訳：小林市：水稲・肉用牛繁殖1名、えびの市：水稲・露地野菜1名、露地野菜1名、肉用牛繁殖2名）

4) 新規就農者育成総合対策（経営開始資金）活用者の就農状況確認を実施

19日、えびの市で水稲とかんしょの自然農法で就農し、新規就農者育成総合対策（経営開始資金）を活用している新規就農者の就農状況確認をサポートチームで実施しました。

積極的に地域の方と交流したり、先進農家の助言を参考にしたりと経営に対する意欲は非常に高く、農作物の栽培面も大きな問題もなくできている状況でした。

今後とも関係機関と連携し、支援していきます。

5) 九州・沖縄地区青年農業者会議にえびの市SAP会議会員が出席

20日、21日に大分県で開催された、九州・沖縄地区青年農業者会議に、えびの市SAP会議のM氏が、プロジェクト発表の部に宮崎県代表として出場しました。部門は土地利用型作物で、発表内容は、しょうが栽培の畑かんの利用と根茎腐敗病対策による収量向上の取組についてで、発表も堂々としており、審査員からの質問にも的確に回答していました。

結果、惜しくも全国大会出場は逃しましたが、九州大会での発表は良い経験となったようでした。



【青年農業者会議の開会式】



【M氏の発表の様子】

(にしもろの畑地を生かした収益性の高い加工・業務用野菜産地の確立)

1) トンネルさといものかん水展示ほの況調査の実施

10日、高原町農畜産振興課とともに、大型スプリンクラーでのかん水を行ったトンネルさといも（石川早生）の収量を調査しました。

今年は、定期的な降雨があり、かん水を実施する機会が2回しかなかったため、展示区と対照区での明確な収量差は見られませんでした。しかし、マニュアルに沿った疫病対策によって、疫病の発生がごくわずかであったことから、かん水の実施と疫病対策を両立できることがうかがえました。



【坪掘りでの収量調査】

2) サツマイモ基腐病発生状況調査の実施

19日、20日に、JA、市町担当者と管内定点のサツマイモ基腐病の発生状況調査を実施しました。先月に引き続き、今回の定点調査でもサツマイモ基腐病の発生は確認されませんでした。また、参加者（JA、市町担当者）から聞き取りでも、管内全域での基腐病の発生は確認されませんでした。

発生状況調査は、来月も同様に実施する予定です。



【サツマイモ基腐病の調査】

3) しょうが展示ほにおける散水器具の設置

31日に、えびの市白鳥で、生産者（「畑かんマイスター」の〇氏）と市役所担当者の参加のもと、しょうが展示ほに散水器具（大型スプリンクラー）の設置を行いました。

生産者は、今回が初めての散水器具の設置となりましたが、設置は問題なく行われ、散水状況も良好であったため、生産者の反応は大変良好でした。

今後は、しょうがの生育等の確認を行っていきます。



【散水器具の設置】

(スマート生産基盤の確立による収益性の高い果菜類産地の育成)

1) JAえびのいちご部会定期総会

24日、JAえびの市において表記総会が開催されました。対面での開催は3年ぶりで、夜には意見交換会も開かれ、活発な意見交換が行われました。

いちごの単価は上がっていますが、面積の減少が問題となっています。需要が増える中、いちごの出荷量を増やすためにも、まずは、イチゴ団地に入る新規就農者を重点的に技術の支援を行っていきます。

(魅力ある西諸果樹産地の維持・発展)

1) ぶどう (ピオーネ) の環状剥皮処理

3日、小林市ぶどう農家の露地トンネルにおいて、着色向上を目的とした環状剥皮を実施しました。連年処理した樹に対して4年目処理を行い、効果の確認と樹勢低下等の影響を調査します。昨年までは主幹部への処理でしたが、今年は、樹勢低下対策として主枝部への処理としています。

現在までの果実肥大や着色など生育は良好で、8月下旬の収穫期に果実品質や着色の調査を行う予定です。夏場の高温による着色不良を改善するため、環状剥皮処理の連年処理が実用化されるよう、今後も調査を継続します。



【ぶどう環状剥皮】

2) 小林市果樹農業振興推進対策協議会 福岡県視察

4日、小林市果樹農業振興推進対策協議会の会員約10名と関係機関3名で、福岡県へ視察に行きました。

特に、視察先の「うきは果樹の村 やまんどん」では、観光農園・直売だけでなく、カフェや加工品にも取り組んでおり、生産物のロスがなく、付加価値の高い販売が行われていました。更に、需要の高いシャインマスカットの増収のため、新しい仕立て方に取り組んでおり、会員も興味深く、質問をしていました。

これから、梨・ぶどうの最盛期に向かいますが、消費者のニーズを聞き取りながら、今後の経営のあり方や栽培方法について検討するきっかけとなりました。



【小林市果振協 福岡県視察】

3) JAこばやしマンゴー部会運営委員会が開催

11日、JAこばやし野尻支所にて、JAこばやしマンゴー部会運営委員会が開催され、役員9名と関係機関7名が参加しました。

運営員会では、JAからの出荷販売情勢の説明と今後の部会活動について話し合いが行われました。協議の結果、総会や出荷反省会、部会交流会などは4年ぶりに通常開催とし、これらの内容を総会で諮ることになりました。

また、普及センターからは、第三者承継に向けたマンゴーの樹体価格算定方法案や園地台帳整理の計画について説明し、生産者から意見をもらいました。

普及センターとして、久しぶりとなるイベントの通常開催やスムーズな運営準備、今後要望が増えると考えられる第三者承継を支援していきます。



【JAこばやしマンゴー部会運営委員会】

4) 若手果樹生産者グループ「ぐれ〜ぷ」の早朝園地巡回

14日の早朝に、ぐれ〜ぷの園地巡回を開催し、生産者7名、関係機関3名が参加しました。普及センターからは病虫害や生理障害、鳥獣害対策等についての資料を配付しました。また、各園地では、コーン・ペネトメーターを用いて土壌硬度を測定しました。



【ぐれ〜ぷ園地巡回】

病虫害や生理障害の説明と各園地の土壌硬度の結果は、夜の意見交換会で詳しく説明を行いました。意見交換会では、生産者同士がハダニや縮果症、着色不良など困っていることに対して助言をしあったり、珍しい品種など情報交換が行われ、有意義な時間となりました。

今年は、昨年発生したシャインマスカットの生理障害はあまり確認されず、順調に生育しています。

今後も若手農家の活動支援を継続して行っていきます。

5) ぶどう（ピオーネ）のアブサップ液剤効果確認

18日、小林市ぶどう農家の露地トンネルにおいて、総合農業試験場職員2名と着色向上を目的としたアブサップ液剤散布を実施しました。

これまで、着色向上対策は主に環状剥皮が行われてきましたが、樹勢低下が見られることが多かったため、薬剤による着色向上効果が期待されます。

夏場の高温による着色不良を改善するため、来年の一般販売に向けて、着色状況や薬害、果実品質への影響を確認し、生産者へ共有します。



【アブサップ液剤の確認】

6) 小林市果振協 役員会

25日、普及センターにて役員会が開催され、生産者4名、関係機関3名が参加しました。今回は毎年8月に行われる品評会について話し合い、8月29日の開催が決定しました。新型コロナウイルスにより4年ぶりの開催となるため、多くの参加が期待されます。品評会は生産者のモチベーションアップや客観的評価の確認ができるため、多くの生産者の参加とスムーズな運営にむけて支援を行います。

(西諸県地域の特色を活かした花き産地振興)

1) ネグサレセンチュウ対策における資材の検討

12日、小林市管内のキク生産ほ場において、農薬メーカー1名と普及センター2名で、ネグサレセンチュウ対策として、資材の効果確認のための根の調査及びドルマン法によるセンチュウ調査を実施しました。

今回処理したほ場は、3月定植で7月収穫の作型で、資材処理後の有害センチュウ数は0で推移していました。今回の調査では、資材の処理が届かない30cm以上の根を観察し、有害センチュウの確認を行いました。

作型の後半には、有害センチュウがみられますが、初期生育が良好となり、生産者も効果があった感触でした。

西諸県地区のキク生産ほ場については、連作する影響もあり、ネグサレセンチュウの影響がみられます。回転数やほ場の条件などで十分に期間をとって土壤消毒ができない場合もあるため、様々な資材の検討を引き続き行っていきます。



【ネグサレセンチュウ調査】

2) 高原町花卉部会の定期巡回・定例会の開催

20日、高原町管内において、キク生産者3名、関係機関4名が参加し、定例巡回と定例会を開催しました。

定期巡回では、8月のお盆出荷型を中心に生産者4戸のハウスを巡回し、生育状況と今後の管理について確認を行いました。

今年、梅雨が短かったことから、ボリュームのある枝が多い傾向ですが、後半が曇天で高温となったため、開花遅延がみられます。

定例会では、JAから現在の単価等の情勢報告がありました。また、普及センターからは、下葉枯れの症状におけるネグサレセンチュウ対策について情報共有を行いました。

その他、9月に行われる家族研修会の内容なども話し合われました。

今後も関係機関と連携し、部会の活動を中心に支援していきます。



【高原町花卉部会定例会】

2 プロジェクト(総合、専門) 以外の普及活動

1) 水稻栽培講習会の開催

19日、20日に小林市、高原町で、20日にえびの市で水稻栽培講習会を開催し、20ヶ所で延べ102名の参加がありました。普及センターから、水稻の生育状況や今後の栽培管理等について説明し、参加者からも病虫害の対策や水田の雑草について積極的に質問が出ました。

今後も西諸管内の水稻農家が高品質・良食味な米を多く栽培できるよう、現地巡回や講習会等を通じて引き続き支援をしていきます。



【栽培講習会の様子】

2) 早播きトウモロコシの収量調査を実施

27日にえびの市、28日に小林市において、早播きトウモロコシ展示ほの収量調査を行いました。展示ほは、えびの市が5品種、小林市が3品種の品種比較を行いました。

これから各品種の成績をまとめ、結果を部会等で共有し、優良品種の選定に役立てていきます。

3) 秋冬作飼料作物品種選定会議の開催

7日に小林市・高原町、12日にえびの市の品種選定会議を開催しました。

会議では、イタリアンライグラスやエンバクの品種比較の成績を検討しました。資材費が高騰する中、価格を押さえた種代で、収量の取れる品種を推していくこととしました。

今後も、低コスト高収量を目指して、品種比較等を行っていきます。



【品種選定会議の様子】

4) 第1回高原町集落営農組合スマート農業機械研修を実施

7日、(農)ハイランドきりしまのほ場を借りて、第1回高原町集落営農組合スマート農業機械研修を開催しました。高原町の集落営農に属するオペレーターを中心に、20名が参加しました。

今回の研修内容は直進アシスト付田植機で、講師としてヤンマーアグリジャパンの担当者をお願いしました。機械も最新の8条田植機を同機械メーカーから借り、実際に地域のオペレーターに田植をしてもらいました。地域内では通常6条田植機を使用しており、最初は感覚がつかみにくいようでしたが、直進アシストがついていることから、田植で最も気を遣う「まっすぐ植える」ハンドルさばきが必要ないため、作業がかなり楽と好評でした。

また、本田植機は密苗に対応しており、苗の継ぎ足しも進みながら行えるので今後地域での導入が期待されます。



【田植機の説明の様子】



【田んぼでの実演の様子】

5) 茶の省力化施肥展示ほの設置

21日に、小林市細野で、生産者の立ち会いのもと、茶の省力化施肥試験のほ場確認と土壌分析用の土壌採取を行いました。

今回供試される肥料は、土壌改良資材と秋肥を同時施用できる一発型肥料となっており、土壌改良資材の散布の時間が省けるものとなっています。

今後は、茶の収量・品質や省力化等の確認を行っていきます。



【茶の省力化施肥試験ほ場】

6) 畦畔除草の省力化を目的とした除草剤実証ほを設置

小林市野尻地区、高原町、えびの市の集落営農や受託組織等を対象に、畦畔除草の省力化を目的とした除草剤実証ほを設置しました。

小林市野尻地区と高原町では、「ザクサ液剤」と「ダイロンゾル」の混用散布、えびの市のみのりの会及び2つの集落営農受託組織では「ザクサ液剤」と「カーメックス顆粒水和剤」の混用散布を行っております。

散布時期や散布後の気象等の影響では場ごとに差はあるものの、どのほ場の畦畔も雑草の発生を抑制していることを確認しました。また、畦畔の崩れも起きておらず、畦畔管理の省力化技術として有効ではないかと思われます。

今後も経過を見ながら、実施農家の意見を聞き、技術の普及に努めます。



【除草剤散布 翌日】



【除草剤散布 2週間後】

7) 西諸県地区果樹技術員会第3回定例会及びくり着毬調査の実施

21日、JAえびの市にて技術員会の定例会を開催し、関係機関12名が出席しました。

会議後にくりの着毬量調査をえびの市、小林市須木で2園地ずつ行ったところ、着毬量については例年よりやや少ない傾向となりました。

今後は、着花・着毬量データを取りまとめ、関係機関に情報共有し、地域の課題に取り組んでいきます。



【果樹技術員会 くり着毬調査】

8) 西諸県地区花き振興会総会・研修会の開催

6日に普及センター研修室にて、西諸県地区花き振興会の総会及び研修会が開催され、管内花き生産者9名、関係機関11名が参加しました。

総会では、令和4年度の実績及び収支決算、令和5年度の計画などの議案に対し、承認されました。令和4年度の実績としては、苗鉢物や重陽の節句のPRイベント、ランキュラス特別販売会について紹介されました。

研修会では、農業生産資材の価格が高騰している情勢を受け、振興局より現在の資材価格の推移及び補正事業、農業生産資材について説明がありました。

また、普及センターからは、ランキュラスの球根生産及び耐暑性リンドウについて、花きの品目紹介を行いました。

栽培における経費が高騰することから、生産者への負担は大きくなっています。事業の活用と日頃の栽培管理を見直すことで、少しでも負担を減せるよう、振興局やJA、市町などの関係機関と協力して引き続き支援していきたいです。



【西諸県地区花き振興会研修会】

8) コーン・ペネトメーターによるほ場硬度測定

先月から適宜、西諸県管内のキク、ランキュラスのほ場において、コーン・ペネトメーター（以下コンペネ）を用いた土壌硬度の測定を実施しています。コンペネを使用することで西諸県管内の花きほ場の排水性や生育状況などを把握し、今後の土づくりの判断材料とすることを目的としています。

今後も引き続きほ場を調査し、傾向を分析しながら、生産者毎の土壌改善に繋げていきます。



【コンペネによる土壌硬度調査】

9) 小林市鉢物生産組合現地視察

13日、14日に若手の小林市鉢物生産組合員3名、JAこばやし花卉部会1名、関係機関2名で福岡県及び熊本県の小売店及び鉢苗生産者の現地視察を行いました。

鉢苗生産者毎に、それぞれにあった独自性の高い戦略を立て経営されており、勉強になりました。

今回の視察は、コロナ禍の影響もあり久々の開催となり、生産者も良い刺激を受けたようでした。

今後も関係機関と連携し、地域の課題に取り組んでいきます。



【小林市鉢物生産組合現地視察】

10) 西諸県地区花き技術員会 第3回定例会の開催

25日、高原町役場にて第3回定例会を開催し、関係機関16名が参加しました。

室内検討では、営振協展示実績検討やキイチゴ「ベビーハンズ」の生産状況等について協議及び情報共有しました。

現地検討では、高原町管内のキイチゴ「ベビーハンズ」の定植を行い、実際の栽培状況について学ぶことができました。

キイチゴ「ベビーハンズ」について興味のある関係機関が増加していることもあり、今後も引き続き技術員会での情報共有や現地検討に取り組んでいきます。



【花卉技術員会 現地検討】

11) ラナンキュラス球根生産におけるミーティング

25日、えびの市のラナンキュラス球根生産者と有限会社綾園芸とともに、昨年作のラナンキュラス球根生産の反省と次作の生産についてミーティングを行いました。

昨年作の反省をふまえて次作は、定期的な防除を適期に実施することとなりました。

次作は規模拡大を予定しているため、有限会社綾園芸や関係機関と連携し、ラナンキュラス球根の高品質安定生産に取り組んでいきます。



【ラナンキュラス球根生産反省会】